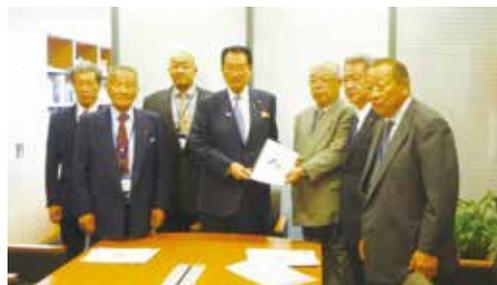


1日目は、加藤寛治衆議院議員の国会事務所に調整いただき、本県選出及び、関係国会議員10名(衆議院議員7名、参議院議員3名)及び、国土交通省7名に対し、地域高規格道路「島原天草長島道路(南島原工区)」の早期事業化について要望活動を行った。



加藤寛治衆議院議員への要望活動

2日目は、空き家対策で先進的な取り組みを行っている、群馬県高崎市役所に伺い、建築住宅課住宅管理担当者から概要

説明を受けた後、質疑応答を行う形で研修を行った。

高崎市で行っている空き家対策は、国の施策とは別物で、「空き家緊急総合対策事業」という、高崎市独自の助成事業1本で行っている。

それは市長の考えが大きく、スピード感を持ってやるということ、空き家は個人の物だからということ、代執行などのように罰則的にやるのではなく、助成金を出すことで、基本的には所有者が、自発的に空き家問題を解決することを求める施策を行い、市は個人でやっていただくように応援をするという部分が根本にあり、空き家の解体だけでなく、「管理と活用と解体」の三本柱のもとに、制度1・空き家のま

ま管理する場合の助成、



農林水産・建設委員長あいさつ

制度2・空き家の解体の場合の助成、制度3・解体跡地の除草等にかかった費用の助成、制度4・空き家の活用助成、制度5・空き家をサロンとして借りる場合の家賃の助成、制度6・空き家を住居として活用する場合の改修費用の助成、制度7・特定地区の空き家を住居として借りる場合の家賃の助成、制度8・空き家を事務所、店舗として活用する場合の助成など様々な施策を展開しておられた。

しかし、高崎市は平成13年4月の特例市移行後に合併し、人口37万5千

人の群馬県内最大の中核都市であることや、東京に近く、古くは関東と甲信越を結ぶ交通の要衝として発展してきたこと、

上越・北陸新幹線をはじめ4本のJR線が通り、関越・上信越・北関東自動車道の高速道や5本の国道が集中しており、首都圏や太平洋と日本海を結ぶハブ都市としての役割を帯び、「人・もの・情報・文化」の集積や交流による、北関東・北信越の中心的都市であることなど、あまりにも本市との較差が大きく、そのまま政策を取り入れることは出来ないものの、大き



高崎市役所研修風景

なヒントを得ることが出来た。

3日目は、群馬県安中市で、下水道と合併処理浄化槽の普及率など、汚水処理事業の現状等について研修を行った。

まず安中市役所上下水道部長から概要説明を受けた後、質疑応答を行う形で研修を行った。

安中市は、公共下水道と浄化槽の2本立てで汚水処理を行っており、浄化槽汚泥については、本市と同じく、市が所有するごみ焼却施設であるクリーンセンターで処理をしている。

県知事が、任期終了までに汚水処理人口普及率を85%にするという公約を立てたが、もうすぐ任期が終わるといところで、公約の達成が難しくなってきたおり、下水道整備だとお金と時間が掛かるので、合併処理浄化槽の普及を伸ばそうという方針に切り替え、各自治体に、合併処理浄化槽を推進してほしいと、県

から要請があったため推進している。

また、安中市としてもその方が市としての負担が軽くなるため、単独槽から合併浄化槽に替えて頂くようお願いしているが、単独槽だとトイレだけの処理で良かったが、合併浄化槽になると、家庭内排水が全部になると、工事費が高くなるというところもあり、高齢者世帯などが思ったように替えて頂けず、普及率が伸びていないとのこと、本市と同じ悩みを持っておられた。



安中市役所研修風景